

平成26年度 第3回

西宮市参画と協働に関する条例評価委員会 会議録(要約)

日時：平成26年7月29日(火)午後6時～8時30分

場所：西宮市市役所 東館8階802会議室

出席者：【委員】中川 幾郎(会長)、黒木 順子(副会長)、北川 悦久、川東 美千代、
東 朋子、池野 雅一

【事務局】市民協働推進課長 三村 嘉伸、同係長 安座間 昌三、同主事 後藤 理恵

1. 開会

2. 審議事項

議題1 傍聴に関する取扱いについて

傍聴者を希望する者はなかった。

議題2 平成25年度協働事業提案手続以外の個別の協働事業について

事務局

平成25年度の協働事業提案手続以外の個別の協働事業について説明。各事業について4段階で評価をお願いします。

1. 優れている
2. 適切である
3. 課題はあるがほぼ適切である
4. 不十分であり改善が必要である

(1)「姉妹友好都市ウィーク」について

事務局：概要について説明。

委員

- ・解決策の部分が、幅広い市民に対して事業に参加してもらいたいという課題に対する解決策になっていない。
- ・前年に対しての成果は何かあるのか。
- ・市の負担がゼロになっているが、なぜか。協働団体が、独自でやる事業ではなく市と協働して行う事業であれば市としても力を入れて、「広く市民に」アピールできるようにやり方を工夫していかなければならない。

- ・中国映画会について、事業の中では大きな金額が出ているがなぜか？

事務局

- ・中国映画会については、団体側が負担して行っているとのこと。

委員

- ・毎年、ただ繰り返すだけになっていて、事業を行うことのみが目的になっている。
- ・大学交流センターとも連携し、大学生で第二言語としてポルトガル語や中国語を選択している生徒を巻き込めるような、新しい企画などを行政側から働きかけてみてはどうか。

会長

- ・市民交流を目的としているが、新しい市民に波及できていないように見受けられる。
- ・展覧会に来た人数の報告がないのは、把握していないのか。案内をする人も立っていないのであれば人が置き去りになっているような印象を受ける。
- ・市は団体との位置づけを再検討していく必要がある。

【結論】 4 . 不十分であり改善が必要である

(2) 平和推進施策事業

事務局：概要について説明。

委員

- ・事業費のほとんどを市が負担しているが、これで協働といえるのか。
- ・事業は素晴らしいが、市の負担が多く協働とはいえない。
- ・事業の実施にあたり、実行委員はいるのか。
- ・本来の意味で協働しているのは、平和灯ろう流しだけのように見受けられる。
- ・親子広島バスツアーは受益者負担が少ないのであれば、事業の後もミーティングを行うなど、啓発活動に貢献してもらうようにすべき。

会長

- ・市民団体と協働して何かを行うにあたっては、政策、企画、実行を協働して行うべきであり、政策ベースからの見直しが必要。実行委員会を作り、公募の市民や学生を入れてみてはどうか。
- ・平和灯ろう流しについては協働のプロセスにのっとっているといえる。他の事業については、多くの市民に認知されるような工夫が必要ではないか。
- ・平和推進事業に関わりをもつ団体がたくさんあることは、大きな財産である。団体の力を借りて、コーディネートしていくのが人権平和推進課の役目ではないだろうか。

【結論】 4 . 不十分であり改善が必要である

(3) 消費生活展

事務局：概要について説明。

委員

- ・行政側が費用のほとんどを負担しており、事業の実施にあたって行政主導でおこなっているように見受けられる。
- ・景品代を市の予算から支出するのは、予算の使い方としていかがか。
- ・消費生活展で、何を訴えたいのかが報告書から見えてこない。何が問題で、何を解決するために消費生活展を行っているのか。
- ・「物言う消費者」になるためにはどのように活動していくべきかが、事業から見えてこない。
- ・記念講演会の内容と消費生活とのつながりが見えない。啓発をするのであれば、どのような問題があるかなど、もっとアピールが必要。
- ・協働事業報告書を見ると、行政と団体とで目線が違っているように感じる。

会長

- ・協働事業として、担当課が問題意識を持っていることは報告書から読み取れる。
- ・大学生や高校生に働きかけて、西宮市の消費問題についてリサーチをしてもらい西宮市の消費者問題に特化した情報を提供するといったやり方を企画してみてもどうか。

【結論】4. 不十分であり改善が必要である

(4) 音楽と出会うまちにしのみや事業「プラス・フェスティバル」

事務局：概要について説明。

委員

- ・良い事業だと思うので、続けていって欲しい。報告書の反省点にもあるが、もっと拡がりがあればよい。
- ・なぜ音楽のプラスバンドに力を入れているのか分からない
- ・報告書の市の協働の課題欄に「特になし」はありえるだろうか。
- ・子どもたちに専門的な音楽と触れ合える機会を与える事業をしているところがとても素晴らしい。参加したことのない学校に対する働きかけも、行政・団体ともに問題意識を持っており、改善が期待される。
- ・食糧費が多すぎる。お金の使い方としてどうか。

会長

- ・なぜプラスバンドなのかは、市が都市政策として条例をもっているか、ビジョンとしてあるのなら問題ないが、なければ資源配分的に不平等な事業であるといえる。
- ・協働の課題に特になしというのはありえない。協働は常に課題があるものであり、その課題解

決に向けて常に新しいことをしていかなければならない。

【結論】 3 . 課題はあるがほぼ適切である。

(5) 環境計画推進事業

事務局：概要について説明。

委員

- ・環境計画評価会議について、協働事業として評価するのは困難ではないか。協働事業としての取り組みが見えてこない。会議を行うにあたって、委員を選び、準備をする過程を報告してもらうべき。

【結論】 評価不可能

- ・昨年の 2 回目の会議から審議会化されたということだが、1 回目の内容についても参画の内容となっており、協働事業して評価を行うのは困難である。

(6) 保健所家族教室

事務局：概要について説明。

委員

- ・事業自体はとても良いが、講演の内容については歩み寄りが必要。市の狙いと、団体の狙いをともに解決していく必要。
- ・事業自体はもっと力を入れて行ってよい事業だと思う。家族会だけではなく、社会福祉協議会など他の団体とも協力して窓口を拡げていってはどうか。
- ・交流会の助言者が、家族会のメンバーというのはどういうことか？

事務局

- ・同じ悩みを抱える人に相談にのってもらう、ピアカウンセリングという手法をとっているとのこと。

委員

- ・いくつか選択肢があるうちの一つがピアカウンセリングなら良いが、他にも専門家に相談する機会を設けるなど選択肢を作ったほうが良い。
- ・参加者が必ず家族会に入らなければならないといった事業にならないように気をつける必要がある。

会長

- ・本事業に関しては、健康増進課が主体となって団体側を引っ張っていく必要があるように見受

けられる。

- ・受け入れ態勢が多様になるように、他団体とも協働したり、家族会にアドバイス・アイデアを求めたりして、カウンセリングや救済の方法を探っていく必要がある。

【結論】 3 . 課題はあるが、ほぼ適切である。

【総評】

ただ事業を行うだけでなく、政策・企画・実施・検証・課題認識・修正といったプロセスを協働して行う必要がある。協働をするにあたって、検証や課題認識の際には参画を行う必要があり、参画のない協働はありえないという認識が必要である。

議題 3 平成 26 年度参画と協働の取組予定について

事務局：平成 26 年度参画と協働の取組予定について説明した。

議題 4 平成 25 年度参画と協働の取組状況の評価について（案）

事務局：「平成 25 年度参画と協働の取組状況の評価について（案）」について、事務局から説明した。今回の評価の結果を反映させたものを作成次第、メールなどで再度校正をお願いすることとした。

4 . その他

事務局：「参画と協働の取組状況の評価について」作成の今後の流れについて説明した。次年度の参画と協働の評価方法について、提案した。検証方法については、再検討するものとする。

5 . 閉会

以上